

そこが知りたい!

くらしの金融知識

外貨建て金融商品 とのつきあい方

近ごろのドル円相場などが替相場の変動については、みなさんも関心が高いのではないのでしょうか。そんななか、外貨建ての金融商品への注目度が増しています。今回は、外貨建ての金融商品について、為替リスクや手数料など基本的な知識について学んでみましょう。

外国為替相場の動きと私たちの生活

私たちの生活は、

外国との取引に支えられている

新聞やテレビなどで頻繁に見聞きする「外国為替」「円高」「円安」などの言葉。聞き慣れてはいるものの、日本国内で生活していて、仕事でも外国の会社と取引をするわけでもない自分にどう関係があるのかピンとこない、という人も少なくありません。

ですが、食べ物一つとってみても、例えば「てんぷらそば」は、そばの86%、エビの95%、衣に使う小麦粉

の89%、しょうゆの原料となる大豆の94%が輸入によってまかなわれています。このように、私たちの生活は外国との取引に支えられているといえます。

輸出入の取引では、日本円と外国の通貨の交換(外国為替)が必要となることが多いので、日本に暮らしていてもその生活は外国為替と深くつながっているのです。

円高と円安

円高は、外貨に対して円貨の価値が高まること、円安はその反対です。例えば、外国為替相場(以下、「為替相場」)が1ドル=100円から80円になれば「円高ドル安

になった」といいます。ところが、「高くなった」といいながら数字は小さくなるのが少し分かりにくい、という声を聞くことがあります。

「1ドル=●●円」という表示は、「1ドルには何円分の価値があるのか」を表しているため、1ドルが100円から80円になるということは、ドルの価値が相対的に安く(すなわち円の価値が高く)なることです。そして、1ドル当たりの円の数字が大きくなるほど円安、小さくなるほど円高になるのです。

メディアでも盛んに為替相場の動きについて報道していますが、例えば、いわゆるリーマンショック前

【監修】

ファイナンシャル・プランナー

國場 弥生 (くにば・やよい)

金融機関勤務を経てファイナンシャルプランナーとして独立。ファイナンシャルプランニング業務の一環として、外貨預金などを利用した分散投資のアドバイスを行っている。

マネーやキャリアに関するコンシェルジュサービスを提供する(株)プラチナ・コンシェルジュ所属。

執筆・取材協力実績:女性セブン特集「ゼロ金利&超円高時代のマネー講座」～衣・食・住を徹底的に見直す!～、DIME特集「プロが教える外貨預金の始め方」～円高の今が始めるチャンス!～など。

イラクディナール?スーダンポンド?

近年、「イラクの通貨(イラクディナール)やスーダンの通貨(スーダンポンド)を買うと、儲かる」と言われて、生活費までつぎ込んで外貨紙幣を購入してしまう例が問題になっています。

これらの通貨は、現在、日本の銀行では取り扱いがありません。業者と相対で取り引きする場合も、「いつでも円への換金に応じる」と説明されていたにもかかわらず、いざ換金を頼むと断られるケースもあるようです。こうした通貨を購入しても、現在のところ、円に換金することは困難だと認識しておきましょう。

悪質な勧誘には要注意です。特に、高齢者や過去に投資トラブルにあった人が狙われやすいとのこと。気を付けてください。

の2007年末と2011年7月末を比べてみると、1ドル＝113円台から77円台になっています。

一般的に、円高になると輸入品の値段が下がります。スーパーマーケットなどが開催する「円高還元セール」は有名ですね。さらに、値段の安い輸入品と競争するために国産品の値段も下がることが考えられます。

一方、円高は輸出品の海外での値段を上げ、日本製品の国際的な競争力を削いでしまう面も持ち合わせています。売上げに占める輸出の割合が多い企業の業績が悪化すれば、従業員が受け取るお給料やボーナスなどの収入が下がり、収入が下がれば家族旅行や外食などの消費を控えざるを得なくなるなど、その影響はめぐり巡って個人にも波及します。反対に円安になれば、円高とは逆の影響が生じます。円高にしろ円安にしろ、為替相場が動けば、私たちの生活にもさまざまな影響が現れます。

選択肢の「アップ」 外貨建て金融商品

企業は、よりよい製品を求めたり売上げを伸ばしたりするために、輸入や輸出を行います。これと同じように、私たちが手元にあるお

金の預け先、投資先として、よりよい選択肢を求めるのは自然なことです。その一環として、外貨建ての金融商品を購入するのも選択肢の一つです。

こういうと、「外国のことは分からないし、投資なんてできない」と思う人がいるかもしれませんが、最近では、個人でも比較的容易に外貨建ての金融商品へ投資できる環境が整いつつあります。もともと、金融商品の仕組みや注意点（リスク）などについてきちんと理解しておく必要があります。

外貨建て金融商品の 注意点

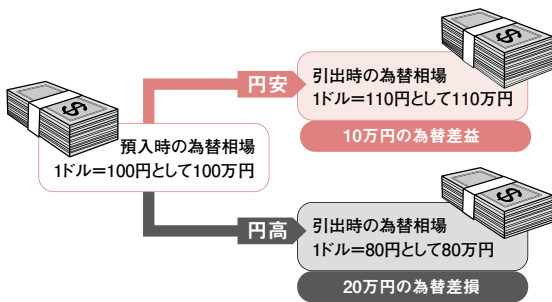
為替相場が変動するリスク

ひとくちに外貨建て金融商品といってもさまざまなものがあります。主な金融商品については後ほど個別に取り上げますが、まずは共通する注意点を確認しておきましょう。

外貨建て金融商品ならではの注意点といえるのが、為替相場の動きによって利益や損失が生じること（為替相場が変動するリスク）です。例えば1ドル＝100円のとときに100万円をドル建てで預金したとします（便宜上、利子のことは考えないでください）。その後、為替

相場が円安方向に動いて1ドル＝110円になったところで預金を引き出し、円貨に戻すと110万円になり、10万円の利益が手に入ります。反対に預金時より円高、例えば1ドル＝80円になった場合はどうなるでしょうか？ドル預金を円貨に戻すと80万円にしかありませんから、20万円の損になります。このように為替相場の動きによって生じる利益を為替差益、損失を為替差損といいます。

■為替差損益のイメージ（ドル建てで1万ドルの外貨預金をした場合）



※預金金利・税・手数料等は考慮していません

円貨と頻繁に交換される外国通貨には、米ドル以外にも、ユーロやポンド、オーストラリアドルなどさまざまな通貨があります。それぞ

れの為替相場は、日本と相手国などの景気、物価、金利など固有の事情を反映して決まります。

金融商品そのものの 価格変動にも注意

また、株式や債券などの価格は、発行体の信用や経済の動きに伴い、常に変動しています。そのため為替相場が動かなくても、株価や債券価格が動けば利益が生じたり損失を被ったりするため、金融商品そのものの価格と為替相場の両方の動きに注意しなければなりません。例えば、いくつかのユーロ加盟国における財政問題が表面化する中で、そうした国々の国債の価格（あるいは国債の利回り）が大きく動いたという報道をご覧になった読者もいるでしょう。

為替手数料

外貨建ての金融商品を購入したり売却する際には、円貨と外貨を交換することにより、外国為替手数料（以下為替手数料）を金融機関などに支払わなければなりません。

為替手数料は、例えば「1ドル当たり1円」「1ユーロ当たり1円50銭」など、通貨ごとに異なります。また、同じ通貨であっても金融機関によって異なる場合があります。

為替手数料は、1通貨単位当た

流動性のリスク

為替相場が変動するリスクや価格が変動するリスクのほかに、流動性のリスクもあります。流動性とは、金融商品の換金のしやすさのこと。急に現金が必要になったときにすぐに換金できなかったり、あるいは不利な価格で手放さざるをえなかったりする可能性があり、これも注意すべきリスクの一つとして位置付けられます。

一般に先進国の通貨や大企業の株式、国債などは一定の流動性が保たれていますが、例えば新興国の株式や債券の中には、流動性が十分でない、つまり流動性のリスクが高いものもあります。ここ数年、日本でも高成長の新興国へ投資する金融商品が人気を呼んでいます。実際に利益を生み出しているものもありますが、引き受けるリスクは決して小さくありません。特に好調なときはどリスクに対する認識が甘くなりがち。注意が必要です。

■為替手数料の例 (円をドルに変換する場合)

金融機関	1ドル当たり 為替手数料	1万ドル当たり の金額
A銀行	1円	10,000円
B銀行	9銭	900円
C銀行	25銭	2,500円

※2011年8月4日時点

り数銭から数円程度と小さな数字なので見過ごしがちですが、預けた投資したりする金額が大きくなるとその負担額は無視できません。また、将来、円貨に戻す場合には、円貨から外貨、外貨から円貨と手数料を往復分支払う必要があるの、しっかりと注意する必要があります。

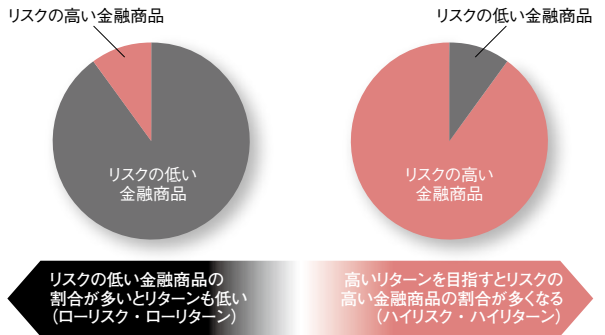
投資スタイル別外貨建て
金融商品の選び方

投資スタイルから考える
外貨建て金融商品の選び方

先ほど注意点として紹介したように、投資にはさまざまなリスクが伴います。生活が立ち行かなくなるほどの損失を被ることがないよう、自分にはどの程度の余裕資金があるのか、どの程度の期間投資することができるかなど、投資を行う際の基本的な姿勢（投資スタイル）を定めることがなによりも大切です。一般的に、余裕資金が多く、投資できる期間（現金として持つ必要がない期間）が長いほどリスクを引き受けやすくと考えられます。反対に、余裕資金が少なかったり投資できる期間が短いと、不利な状況でも損を覚悟で金融商品を手放さなければならぬことがあります。

また、どの程度の利益（リターン）を目指すのかという視点も重要です。一般に、高いリターンを目指す、その分高いリスクを引き受ける（ハイリスク・ハイリターン）こととなります。主な外貨建て金融商品のリスクとリターンは、どの通貨を選ぶかなど前提条件に

■金融商品の組み合わせとリスク・リターンの関係 (イメージ)



よって変わります。

金融商品は、どれか一つを選ばなければいけないわけではなく、余裕資金の範囲内で組み合わせることも可能です。自分の投資スタイルに合わせて、円建ての金融商品と外貨建ての金融商品を組み合わせたり、リスクの高いものと低いものを組み合わせたりして投資全体のリスクとリターンのバランスをとることが肝要です。

外貨預金

●外貨預金の概要

外貨預金は、その名の通り日本円以外の通貨建ての預金です。金

■外貨建て金融商品の概要一覧

金融商品名	概要	取扱金融機関
外貨預金	ドル、ユーロなど外貨建ての預金。円預金と同様に普通預金や定期預金などの種類がある。	銀行など
外国債券	外国の政府や国際機関などが発行する債券。主要な通貨以外にブラジルレアルや南アフリカランド建ての債券もある。	証券会社、一部の銀行
外国株式	外国の証券取引所に上場している株式。主にアメリカや香港など。	証券会社
投資信託	外国の債券などに投資する外資MMFが代表格。ドル、ユーロ、オーストラリアドル建てなどがある。	証券会社、銀行
外国為替証拠金取引 (FX)	証拠金と呼ばれる担保を差入れることで、それ以上の金額の為替取引を行うことができる	FX会社、証券会社

融機関によって通貨のラインナップは異なりますが、米ドル、ユーロ、オーストラリアドル建てのものが比較的広く取り扱われています。珍しいところでは、南アフリカランドやブラジルレアル建ての外貨預金を用意している金融機関もあります。外貨預金も円預金と同じように普通預金や定期預金があり、基本的な仕組みはほぼ同じと考えてよいでしょう。ただし、あくまで外貨建てである点を忘れないでください。預けるときの引き出すときの為替相場によっては、円換算したときに元本割れしてしまうリス

クもあります。また、前述のとおり円預金には必要のない為替手数料も生じます。

● T.T.SとT.T.B

外貨預金は預けるときに「T.T.S（対顧客電信売相場）」、「引き出すときに「T.T.B（対顧客電信買相場）」と呼ばれる為替相場が適用されます。T.T.Sは、金融機関が顧客に外貨を売るとき、つまり顧客の側からみれば、円を外貨に交換するときの相場。T.T.Bは金融機関が顧客から外貨を買い取るとき、つまり顧客が外貨を円に交換するときの相場です。それぞれ為替手数料込みの相場だと考えると分かりやすいでしょう。

■T.T.SとT.T.Bの例

	定期預金 金利 (1年)	T.T.S	T.T.B
ドル	0.01%	79.11	77.11
ユーロ	0.24%	113.36	115.86
オーストラリア ドル	2.92%	115.86	91.12

※2011年8月8日時点。A銀行

●外貨預金は預金保険制度の対象外
外貨預金は、為替相場変動するリスクや為替手数料のほかにも、一般的な円預金との違いがあります。それは外貨預金をしている金融機関が破たんした場合に、預金

者を保護するための仕組みである預金保険制度の対象にならないという点です。

● 外国債券

● 債券とは

債券とは、政府や企業が同じ条件でたくさんの人から資金を集めるための借用証書です。テレビや新聞などでよく取り上げられる「国債」も政府が発行する債券です。債券は、償還（満期）まで持ち続けられ、元本を返済し、それまでの期間は、定期的にあらかじめ決めた利子を支払うことを約束するものです。もしも償還前に換金したい場合は、時価で売却することも可能です。ただし、発行体（債券を発行する政府や企業など）が破たんしてしまうと、約束していた元本の返済や利子の支払いが行われない可能性があります。債券の中でも発行体、通貨、発行場所のいずれかが外国のものは外国債券に分類されます。

● 取引方法

外国債券は、主に証券会社で取り扱われています。大抵は金利、期間などの条件が異なるさまざまな債券が揃っているのですが、その中から自分の投資スタイルに合うものを購入することになります。少し

難しい話になりますが、債券を償還までの間に売買するときの時価を「債券価格」といいます。

● 外国債券の条件例

銘柄名	利率(クーポン) (%)	償還	残存期間	債券価格 (販売価格)	利回り (%)
A債券 (ドル)	2.625	20××年××月××日	9年3カ月	102.13	2.36
B債券 (ユーロ)	2.25	20××年××月××日	3年7カ月	103.96	1.13
C債券 (オーストラリアドル)	6.5	20××年××月××日	1年9カ月	105.26	3.39

状況に応じた上がったり下がったりしてしまっています。債券は、利率(クーポン)は、償還はいつ、という具合に条件を決めて発行するものですが、発行後は、債券価格が動くため利率(クーポン)よりも利回りに注目が集まります。

● 外国株式の概要

外国株式は、外国の企業が発行する株式です。日本の証券取引所に上場しているものもありますが、取引が盛んなのはニューヨーク、ロンドン、香港など外国の証券取引所に上場している株式です。世界

的に有名な企業や新興国で頭角を現す新しい企業などに投資することができると魅力です。ただし、株式投資は大幅な値上がり期待できる半面大きく値下がりする可能性も持ち合わせています。

● 外貨建て投資信託

● 外貨MMFとは

投資信託とは、投資家から集めた資金をひとまとめにして株式や債券などに投資し、そこから得られた利益を投資家に分配する仕組みの金融商品です。投資する対象やタイミングの判断はファンドマネージャーと呼ばれる専門家がを行います。現在、円建ての投資信託に比べると外貨建てのものは限られていますが、代表的なのが「外貨MMF」です。外貨MMFは、外国の国債など安全性が高く、償還までの期間が短い債券を中心に運用が行われている投資信託です。

運用の結果として得られた利益は1カ月ごとに元本に組み入れられていきますが、ほかの投資信託と同様に、あくまで成果を投資家へ還元するので、事前に利回りが約束されているわけではありません。とはいえ、まったく様子が分からないのでは投資するかどうかの判断をすることができないので、過去の一

毎月分配型の投資信託の留意点

今回は外貨建ての金融商品を中心に紹介していますが、円建てであっても実際には外国の債券や株式などに投資をしている投資信託も実は少なくありません。代表的なものとして、主要国の政府や国際機関などが発行する債券（ソブリン債）を中心に運用し、毎月決まった日に分配金が支払われるという特徴を持った投資信託があります。

現在ではさまざまな毎月分配型の投資信託が登場していますが、注意したい点もあります。そもそも毎月分配が人気を集めたのは、退職金などのまとまった資金はあるものの給与のような毎月の収入がない人が「手元の資金をできるだけ取り崩さずに運用しながら定期収入を得たい」というニーズを捉えたからにほかなりません。ところが、分配金ばかりがクローズアップされるようになり、投資からの利益が出ていないにもかかわらず元本部分を取り崩して分配金を維持しようとする投資信託もみられるようになってきました。

投資信託の購入を検討する際は、分配金のほか「基準価額」と呼ばれる投資信託の値段を過去に遡って確認し、同じカテゴリに属する投資信託と比較するなどしっかり吟味したいものです。

■主な金融機関が取り扱う
外貨 MMF の実績利回りの例

通貨	ドル	ユーロ	オーストラリアドル
X証券	0.159%	0.580%	4.229%
Y証券	0.152%	0.670%	4.159%
Z証券	0.109%	0.766%	4.124%

※2011年8月8日調べ。課税前。基準となる1週間の平均実績。

定期間の実績から年換算した利回りが公表されています。金融機関によっては同一通貨建てのMMFを複数取り扱っている場合があります。左記は過去の実績であり、今後の運用について保証するものではありません。

外国為替証拠金取引 (FX)

●外国為替証拠金取引 (FX) とは

証拠金と呼ばれる担保を差し入れることで、その何倍もの金額の為替取引を行うことができるのが外国為替証拠金取引です。「Foreign Exchange (外国為替)」を略して「FX (エフエックス)」とも呼ばれます。少額の手元資金で多額の取引が可能のため、大きな利益が期待できる反面、大きな損失を被る可能性もはらんでいます。また、外貨を「買う」だけでなく「売る」ことができるのも大きな特徴です。持っていない外貨を売りと、あとで買い戻す特殊な仕組みの取引によって、円高が進む局面でも利益を得る手段が生まれます。

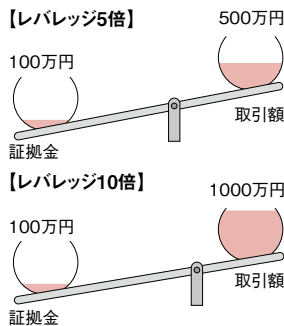
外貨を「買う」とか「売る」という表現は一般にはあまりなじみませんが、為替取引に関わる場面では比較적으로使われています。為替取引は、2つの通貨がペアになってはじめて成立するものなので、円貨を外貨に替えることは「円貨を売り、外貨を買う」こと、外貨

を円に換えることは「外貨を売り、円貨を買う」ことだと考えられているのです。

●レバレッジ規制の導入

FXにおいて証拠金に対する取引額の比率を「レバレッジ」といいます。小さな力で大きなモノを動かす「てこの原理」を思い浮かべてみてください。

■レバレッジのイメージ



かつては証拠金の百倍以上の取引が可能なた時期もありましたが、投資家を保護する目的で2011年8月以降は証拠金の25倍までという規制が設けられています。

始める前にできる試算

主な外貨建て金融商品を概観しましたが、いずれも将来の受取額が分からない不確実さを伴います。不確かだからこそ利益が生まれるのも事実ですが、ここで紹介したリスクや留意点をまったく想定しないで投

■外貨預金の損益分岐が替相場の簡易計算

1ドル=100円の時、年利率1%、期間1年のドル建て定期預金に1万ドル預けた場合の損益分岐が替相場

【円建ての払込金額】
 1万ドル × 100円 = 100万円
 外貨建ての預入金額 預入時の為替相場

【税引き後の受取利息】
 1万ドル × 1% × 0.8 = 80ドル
 外貨建ての預入金額 年利率 税引き (20%)

【外貨建ての受取金額】
 1万ドル + 80ドル = 1万80ドル
 外貨建ての預入金額 税引き後の受取利息

【損益分岐が替相場】
 100万円 ÷ 1万80ドル = 99.206...円
 円建ての払込金額 外貨建ての受取金額

計算式で損益分岐が替相場を算出することができまますので試してみてください。

Webを利用しなくても、左記の計算式で損益分岐が替相場を算出することができまますので試してみてください。

全国銀行協会のWebサイトには、ドルまたはユーロ建ての預金について、預入金額、期間、年利率、預けるときの為替相場、引き出すときの為替相場を入力すると、満期のときに受け取る金額や損をしない為替相場（損益分岐が替相場）などが自動的に計算されるシミュレーション・ツールが用意されているので便利です。